

日本急送時代

エクシングのルーツを辿る

1927～ (昭和2年)

- 1927年(昭和2年) 安藤浅吉「安藤自動車運送店」を愛知県小牧にて開業
- 1933年(昭和8年) 名古屋に営業所を開設
大阪にも進出し、大阪～名古屋間の運送を始める
- 1947年(昭和22年) 終戦の翌々年に大阪～名古屋定期トラック便を再開
- 1950年(昭和25年) ㊤日本急送株式会社に社名変更
- 1959年(昭和34年) 労組結成後、ストが頻発し業績悪化
- 1960年(昭和35年) 区域免許を菱大運輸に譲渡
- 1965年(昭和40年) 会社更生法を申請



初代 安藤浅吉



昭和18年 安藤家3代唯一の写真

エクシングのルーツを辿るには菱大運輸以前の日本急送の時代から語らなければならない。1883(明治16)年、岐阜市で生を受けた初代安藤浅吉は、旺盛な好奇心を発揮し様々な仕事を手がけた後、1927(昭和2)年、44歳の時、小牧で長男峯一とトラック運送業を始める。1933(昭和8)年には名古屋～大阪間のトラック輸送を開始、大阪は次男正夫(正勝の父)が担当、この頃より関西ペイントの荷物を扱うようになる。終戦の翌々年には業界の先端を切って正夫が「㊤安藤組運送店」として大阪～名古屋間の定期トラック便を再開し戦後の混乱期を乗り越えた。

その後1950(昭和25)年に、名古屋と大阪が合併し日本急送株式会社となり、太平洋戦争でブランクがあった峯一が会長、正夫が社長に就任し、一時は社員1,100名をかかえる有力路線会社になったものの、1959(昭和34)年結成直後の組合活動が過激化、労働争議が頻発し顧客の信頼を失墜、1965(昭和40)年会社更生法を申請するに至った。

1959年(昭和34)年頃、激化する組合活動のため営業に支障をきたしていた。



安藤運送店の頃



昭和初期 赤組組安藤運送店創業当時(小牧)
まだ自動車が大変珍しかった時代、運送業は大きな冒険であったが、創業者・浅吉の精力的な働きで事業は順調に拡大した。(自動車はシボレー)



昭和14年 名古屋本社
戦前、名古屋に進出した当時の㊤安藤自動車運送店。一方、大阪・天満にも進出し、大阪～名古屋間の定期トラック便を開始。当時としては画期的な試みであった。

日本急送 大阪本社・名古屋支店の様子



2代目 安藤正夫

昭和25年に、㊤安藤自動車運送店から㊤日本急送株式会社に改称し、社長には安藤正夫が就任した。資本金50万円、大小15台のトラックで新たな一歩を踏み出した。昭和34年には、すでに1,100名の従業員を擁する企業に成長を遂げている。



昭和25年 日本急送本社(大阪・天満)



昭和29年 関西ペイント尼崎工場出荷センター前



昭和27年 改築後の大阪本社
業界のトップを切って大阪本社を鉄筋建に改築した。



昭和29年 大阪城をバックに初出式



昭和31年 名古屋支店
名古屋支店も広大な敷地に新社屋を建設。



昭和34年 細江ターミナル
社名のネオン塔や全館に放送設備を備えた四階建のターミナルが完成し、営業活動の拠点となった。急速な会社発展と平行して労組によるストが激化した頃。

菱大運輸・その一

駆け抜けた草創期

1960～ (昭和35年)

- 1960年8月 資本金200万円で大阪府高槻市に菱大運輸を設立
- 1961年4月 業務開始
- 1962年5月 平塚営業所開設で関東地区へ進出
 - 11月 菱友会 第1回慰安旅行
- 1963年12月 川崎営業所 開設
- 1964年4月 社員持株制度 開始
 - 5月 本社を大阪市淀川区加島に移転
- 1965年1月 愛車表彰制度 開始
 - 4月 社内報「明日への歩み」創刊
 - 6月 誕生会スタート
- 1966年2月 名古屋営業所 開設
 - 5月 無事故無違反表彰制度 開始



3代目 安藤正勝



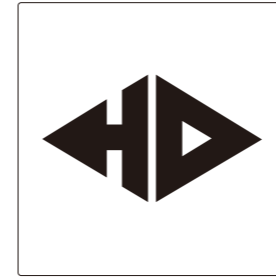
創業当時の高槻本社車庫

1959(昭和34)年、日本急送労組の度重なるストライキでこのままでは荷主に迷惑がかかるということから、急送別会社を設立し業務を引き継いだ。日本急送から区域免許を譲り受けて1960(昭和35)年に「菱大運輸株式会社」を設立、翌年4月に創業にこぎつけたが、公正取引委員会より日本急送・安藤正夫から菱大運輸・安藤正夫への「譲渡譲受」手続きは不可とのことで、急進3代目である安藤正勝が24歳の若さで社長となりスタートすることになった。

日本急送の失敗に学んだ若き社長は「資本・経営・労働」が一体の企業を目指し、「社員持株制度」「愛車表彰制度」「無事故無違反表彰制度」や、社内報「明日への歩み」を発刊、従業員の意識高揚、社内の調和を図ることに注力する。

社内報「明日への歩み」は「生きた社史」としての大きな役割を持ちながら、「ヒューマンネットワーク」「マンスリーター36」として現在も続いている。

菱大運輸 社章



ユニークな試みを次々と実施



愛車表彰制度・無事故無違反表彰制度が開始された。ドライバーの事故防止や経営への参画意識を高める様々な工夫が生まれた。菱大運輸創立以来、エネルギーに駆け抜けた時代である。



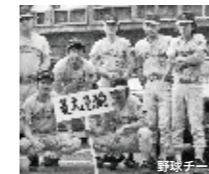
第5期の1965(昭和40)年、安藤社長自らが編集長になり発刊。「社員に親しまれる社内報」「生きた社史に」「会社と家庭とのエアメールに」、という思いがあった。

社員の和を大切に



1962(昭和37)年 第1回慰安旅行 白浜

「経営幹部と従業員との対話の場」を大切に考え、「菱友会(慰安旅行の会)」「誕生会」をはじめ、レクリエーションも活発に行った。社内報「明日への歩み」には、毎号社長や幹部からは細かなメッセージが、従業員からは平直な声が届けられ、現在に引き継がれている。



野球チーム

平塚営業所



会社設立の2年後には関東地区に進出、平塚営業所を開設した。

この頃の車輛



菱大運輸カラー

1961年に大型車2台、小型車8台でスタートした車輛も、4年後には約70台に増えた。



関西ベイントカラー(関西地区)



関西ベイントカラー(関東地区)

菱大運輸トラックとは別に、関西ベイントカラーとして関西地区はイエロー色、関東地区はグリーン色のトラックを走らせていた。

礎いしずえの時代

菱大運輸・その二

1968～ (昭和43年)

- 1968年5月 第一次5ヶ年計画スタート
- 1970年5月 責任車制度 開始(創立10周年記念)
 - 8月 鹿沼倉庫 設立(関西ペイントとの合弁会社第1号)
- 1971年2月 平塚、川崎に続いて兵庫県尼崎市に本社ビル建設 移転
 - 6月 鹿沼営業所 開設
 - 9月 名鉄事故
- 1973年1月 持ち家運動の展開(財形貯蓄)
 - 7月 日本急送 更生手続 終結
- 1978年5月 パレット管理システム導入

第1次5ヶ年計画で施設拡大に拍車



1961(昭和36)年の尼崎工場を皮切りに、順調に関西ペイント4工場総てに進出を果たすも更なる設備拡大の必要に迫られ、1968(昭和43)年に「第一次5ヶ年計画」をスタートさせた。

- ① 厚生施設の充実と車両収容能力の拡充
 - ② 自己資本の充実
 - ③ 従業員持株制度の推進
- を掲げ、1969(昭和44)年8月に平塚営業所、1970(昭和45)年12月に川崎営業所、続いて1971(昭和46)年2月には、尼崎に現在の本社ビルを、3月に高槻営業所を建設し、高度成長の波に乗り事業を拡大した。

現在の礎となっているこの「第一次5ヶ年計画」は、結果として1973(昭和48)年10月の石油ショックによるコストの暴騰を避けることになった。

1980～ (昭和55年)

- 1980年4月 キングスクラブ 発足(創立20周年記念)
 - 5月 「無事故への挑戦」発刊 菱友会年金制度 発足
- 1981年1月 コラル会 スタート
 - 3月 女性ドライバー誕生(静岡営業所)
- 1982年5月 さつき会 スタート
- 1983年3月 シルバー会 スタート(現レインボークラブ)
- 1984年5月 宇都宮物流との合併 資本金2億8,400万円に
 - 11月 物品販売開始(タウンサービス)
- 1985年6月 高所作業車のレンタル開始(レンタルサービス)
 - 10月 マーキングフィルム販売開始(ファンタックサービス)



一方、運送会社の永遠のテーマである「安全」対策への取り組みも行っている。創立10周年記念として1970(昭和45)年5月からスタートした「責任車制度」によって、ドライバー自身が自分を管理するコスト管理意識を植え付けたが、その翌年9月に名鉄特急との衝突という大事故が発生した。

1980(昭和55)年には20周年事業として50万キロ無事故ドライバーの集まりである「キングスクラブ」が誕生。また事故防止への取り組みをまとめた「無事故への挑戦」を発刊。「社内で他人を作らない」を目的とした社内各クラブが誕生。

各サービス スタートの頃



プロドライバーの集団、キングスクラブは50万km無事故ドライバーをベースに20周年記念事業として発足した。当初は20名でスタート。ドライバー同士の親睦・信頼を深め、後輩の指導や安全走行への取り組みなどを行っている。



エクシングの誕生と新体制のスタート

1986～ (昭和61年)

- 1986年 5月 株式会社エクシングに社名変更(創立25周年記念)
- 1987年 5月 塗料販売 開始(塗料サービス)
- 10月 鹿沼過積載事件
- 1988年 7月 社員持株会 発足
- 1990年 7月 本社及び主店所リニューアル(創立30周年記念)
- 1992年 1月 プライム会 スタート
- 4月 第1次新体制

菱大運輸からエクシングへ



未知数現在進行形の“Xing”企業として

- EXCELLENT 絶えず一歩秀でよう
- EXPERT 絶えずプロの自覚を持ち続けよう
- EXPRESS 絶えず迅速であり続けよう

1986(昭和61)年5月、菱大運輸から株式会社エクシングに社名変更、CIを実施した。

「HUMAN NETWORK STATION」をコンセプトに新事業を展開。5サービス(運輸・タウン・レンタル・ファンタック・塗料)が稼働する。

全社員が一体となり、新たな可能性にチャレンジしていく姿勢を社内外に提示した。

翌年、鹿沼営業所の「過積載事件」が発生。「名鉄事故」と共に大きな試練であったが、これらに全社で正面から向き合うことで乗り越え、信頼回復に努めた。



西宮浜倉庫

30年間赤字決算をすることなく順調に推移していたが、新体制となった1992(平成4)年、業績の急激な落ち込みを受けて9月に「非常事態宣言」を発令。経営体制を改め全社一丸で赤字決算の回避を目指す。様々な対策を実施した結果赤字決算を回避し、1年で非常事態は終結した。

折しも1995(平成7)年1月17日、関西を阪神淡路大震災が襲う。社員に死者が出なかったことは幸運であった。因らざるも大災害は大需要となり、レンタル、ファンタックの業績は急速に回復し、翌年は10年振りの黒字となった。

- 1994年 10月 車載コンピュータ 導入
- 1995年 1月 阪神淡路大震災 発生
- 1996年 4月 第2次新体制
- 1997年 3月 年商100億円 達成
- 1998年 1月 西宮浜倉庫 建設

社屋リニューアル



阪神淡路大震災の恐怖



1995年1月17日午前5時46分、この日は阪神間に住んでいる私たちにとって、一生忘れられない日となった。幸いなことに従業員や建物には大きな被害はなかく、胸をなで下した。震災直後に西宮市から救援の要請があり、運輸・レンタル共同で人工透析用の水を運搬する作業を担う。また、少しでも地域に役立ててもらえば、と西宮市に義援金を贈呈した。

2000～ (平成12年)

- 2000年 10月 社誌 発刊(創立40周年記念)
- 2001年 1月 連続無事故走行400万km達成者の誕生
- 3月 尼崎本社隣接土地 取得
- 2002年 12月 ISO9001を認証 取得(レンタルサービス)
- 4月 軌陸車リース開始
- 2004年 5月 ISO9001を認証 取得(尼崎営業所)
- 4月 ISO14001を認証 取得(本社、尼崎営業所、尼崎センター、レンタルサービス)

- 2006年 7月 日本急送 解散
- 8月 埼玉物流センター 開設(計20営業所)
- 2007年 5月 マンスリーレター 発刊(3年限定)
- 2008年 1月 サーチャージのお願い(～2009年6月)
- 2009年 2月 レイオフ実施(～2010年5月 休業日数 延べ12,486日)
- 2010年 4月 マンスリーレター パートII

40周年式典



「変革と苦難の10年」

震災が一段落した36期(1996年)からは、若手を中心とした第2次新体制がスタート(社長 安藤邦彦)。しかし38期(1998年)からレンタルが再び赤字に、加えてスタート以降赤字続きの塗料は43期(2003年)、ファンタックに統合。レンタルの再建は49期(2009年)まで持ち越された。

苦難の10年を救ったのはファンタックだった。43期(2003年)に初めて利益1億円を出してから、47期(2007年)までの5年間、運輸に替わって会社を支えた。

運輸サービスでは、3億円のプライスダウンを受け47期(2007年)から1年期限付きの安藤会長体制でのぞんだ矢先、11月には軽油が急騰し、サーチャージのお願いをすることになった。

自車の収益も徐々に改善した2008年9月、今度はリーマンショックが発生し、世界経済は大撃を受ける。世界のトヨタが赤字決算を余儀なくされる窮状に、2009年2月から翌年5月まで、延べ12,000日を超えるレイオフを実施。貴重な体験と全員のコストダウンで難局に対応した。

2010年5月、山部博政社長に交代し、新たな歩みを踏み出している。



埼玉物流センター



タウンのカatalogと人気のあめ

400万km無事故走行達成



2001年1月、400万km無事故走行の大記録を達成した。キングスクラブ初代会長の金子勲。2人目の達成者は高牟礼忠夫。これはなんと地球100周分に当たる距離で、31年かけて達成した偉業といえる。



高牟礼忠夫(尼崎営業所)

さらなるパワーアップを目指して



レンタルの場所作業車



ファンタックサービス



軌陸車(鉄道用)